

自然が育む美しい色彩
訪れる人の心に響きわたる
優しい風景が、そこにあります

角田山



緑豊かな上堰湯公園から見た角田山
左手奥が多宝山



昔は「十宝山」と呼ばれていたという多宝山は南に位置する弥彦山と双耳峰。標高は633・8メートルで、新潟市内では一番高い山です。

多宝山は、かつて品質の良い銅が採れた、まさに名前の通り宝の山。元禄14年(1701)から銅の産出が始まり、明治・大正時代にピークを迎えました。その銅によって、燕の銅器産業が栄えたといわれています。

岩室温泉側からは岩室神社、丸小公園、石瀬の3つの登山口があり、頂上には気象レーダー観測所が建っています。角田山と同じく、佐渡弥彦米山国定公園に属し、豊かな自然が魅力です。清らかな湧き水を育てられるほか、雪割草やカタクリ、イチリンソウ、ヤマユリなど、季節の山野草が目を惹かせてくれます。

多宝山

西蒲区のシンボルとして親しまれている角田山。佐渡弥彦米山国定公園に属し、県内に自生する草木のほとんどが見られるという、自然豊かな山です。

標高は481・7メートル。山頂から望む越後平野、日本海、佐渡島の眺めは格別です。なだらかな山容のなかに7つの登山道が設けられ、それぞれ山頂までは1〜2時間程度。体力に応じてコースを選ぶことができます。

角田山が最も輝くのが春。「花の山」とも呼ばれるように、雪解けとともに雪割草(オオミスミソウ)が可憐な花を咲かせると、それに続いて次々と山野草が山を彩ります。斜面一面を埋め尽くすカタクリの群生も圧巻です。



雪割草(オオミスミソウ)



カタクリ



キクザキイチゲ

角田山
多宝山で
出会う
主な
春の花
hana

雪どけとともに、白、紫、ピンクなどさまざまな色の可憐な花が咲き、新潟の里山に春の訪れを告げる雪割草。角田山から多宝山一帯で、群生を見ることができます。

薄紫の愛らしい花を咲かせるカタクリは、ユリ科の多年草。角田山や多宝山の斜面では、3月下旬から咲き始め、一面の群生や雪割草との共演が、登山者の目を惹かせてくれます。

春の訪れを告げるように、かわいらしい花を咲かせます。見頃は3月下旬から5月上旬くらいまで。他の花々とともに山を彩る姿に、目と心を奪われます。



夏井のはざ木展望施設と多宝山

